

関係各位

長岡技術科学大学入試課

令和4年度第1学年学校推薦型選抜における小論文試験について

本学公式HP上において令和3年12月2日付けで公表しておりますが、令和3年11月13日（土）に実施いたしました令和4年度第1学年学校推薦型選抜の小論文試験において、出題ミスが判明しております。

本冊子に掲載しております令和4年度第1学年学校推薦型選抜の小論文試験の取扱いは次のとおりとなりますので、御留意願います。

受験者の皆様をはじめ、関係者の皆様に多大なる御迷惑並びに御心配をお掛けいたしましたこと心よりお詫び申し上げます。この事態を真摯に受け止め、今後の再発防止に努めてまいります。

記

1. 出題ミスの内容

小論文の問2において、「問1の文章」に対する題名を記述させる出題を行いました。出題の意図は、問1で受験者が解答（論述）した文章に対する題名を解答させる問題でしたが、問2の設問内容は、「問1で参考として示されていた文章に対する題名」であるとも取られかねない曖昧な表現でした。

2. 対応

当該の問2については、受験者全員正解として扱いました。

以上

令和4年度 第1学年入学者選抜 試験問題

学校推薦型選抜

小 論 文

注 意 事 項

1. 「はじめ」の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は表紙を除いて1枚、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚です。
「はじめ」の合図があってから確かめなさい。
3. 監督者の指示に従い、解答用紙に受験番号を記入しなさい。ただし、氏名を書いてはいけません。
4. 文字などの印刷に不鮮明なところがあった場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
5. 解答はすべて解答用紙に横書きで記入しなさい。ただし、「総得点欄」「採点欄」に記入してはいけません。
6. 試験終了後、配付された問題用紙、下書用紙は持ち帰りなさい。

問題用紙

(小論文)

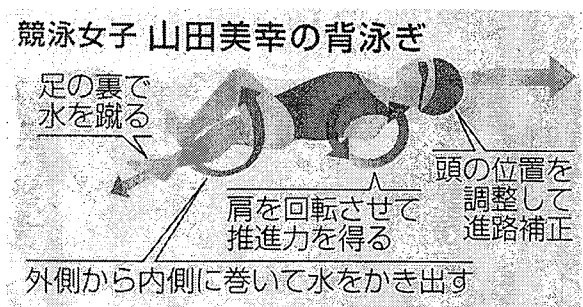
次の文章を読み、下の問い（問1・問2）に答えなさい。

女子100背 山田「銀」

創意工夫で独自泳法

25日の競泳女子100m背泳ぎ（運動機能障害S2）で銀メダルを獲得した山田美幸（WS新潟・阿賀野市）は、生まれつき両腕がなく、下半身も自由ではない。それでも「障害は個性」と前向きな14歳のホープは、健常者の競泳の常識には当てはまらない泳ぎ方を自らの創意と工夫で作上げた。

キックは足の甲で水を捉える一般的なバタ足ではなく、膝を曲げて足の裏で水を蹴るように進む。自転車をこいでるような動きで、ここで脚を外側から内側にうまく巻いて水をかき出す。脚の長さは左右で差があり「（長い）左の方が力が強く、右の方が器用」と自己分析する。



上半身も巧みに利用。脚の長さが違うため力の差で右方向に進みがちだが、頭の位置を調整して進路を補正する。腕によるストロークはできないが、肩を器用に回転させて推進力を得ている。

選手の障害の種類や程度にはそれぞれ違いがあり、パラ競泳の指導法にセオリーはない。山田の泳法について日本代表の上垣匠監督は「（関節の）可動域や体の特徴という部分では（健常者の）水泳の概念とは違う。彼女の生活で磨かれてきたもの」と解説する。特に重度障害者の選手層は日本で薄く「ああいう選手をどう伸ばしていくか、一緒に学んでいく必要がある」と話している。

（出典：新潟日報 2021年8月27日記事。記事における写真とその説明、小見出しは除いた。図は、カラーから白黒へと変換し、明るさとコントラストを調整した。）

問1 上の文章を参考にして、これまでの自分の人生で直面した課題を、「自らの創意と工夫」で解決した事例を1つあげ、その課題の解決のためにあなたがもっている個性や人間性をどのように発揮したかを600字以内で論述しなさい。なお、解決手法は必ずしも真実である必要はありません。

問2 問1の文章の題名を最大40字でつけなさい。